

令和2年度第1回北海道森林管理局保護林管理委員会資料

狩場山周辺の保護林拡充について

- 追加調査・解析の結果
- 拡充範囲の検討について

北海道森林管理局

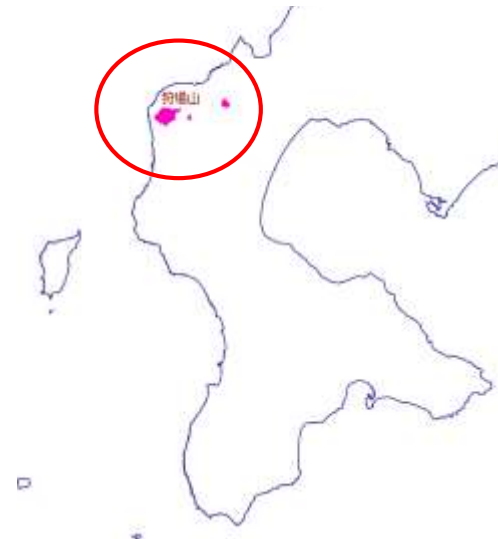
(受託者：株式会社さっぽろ自然調査館)

事業の目的と経緯について

- ◆ 狩場山地周辺はブナの北限地帯、まとまった形で原生的な天然林が分布
- ◆ 平成30年度から森林生態系保護地域の拡充について検討

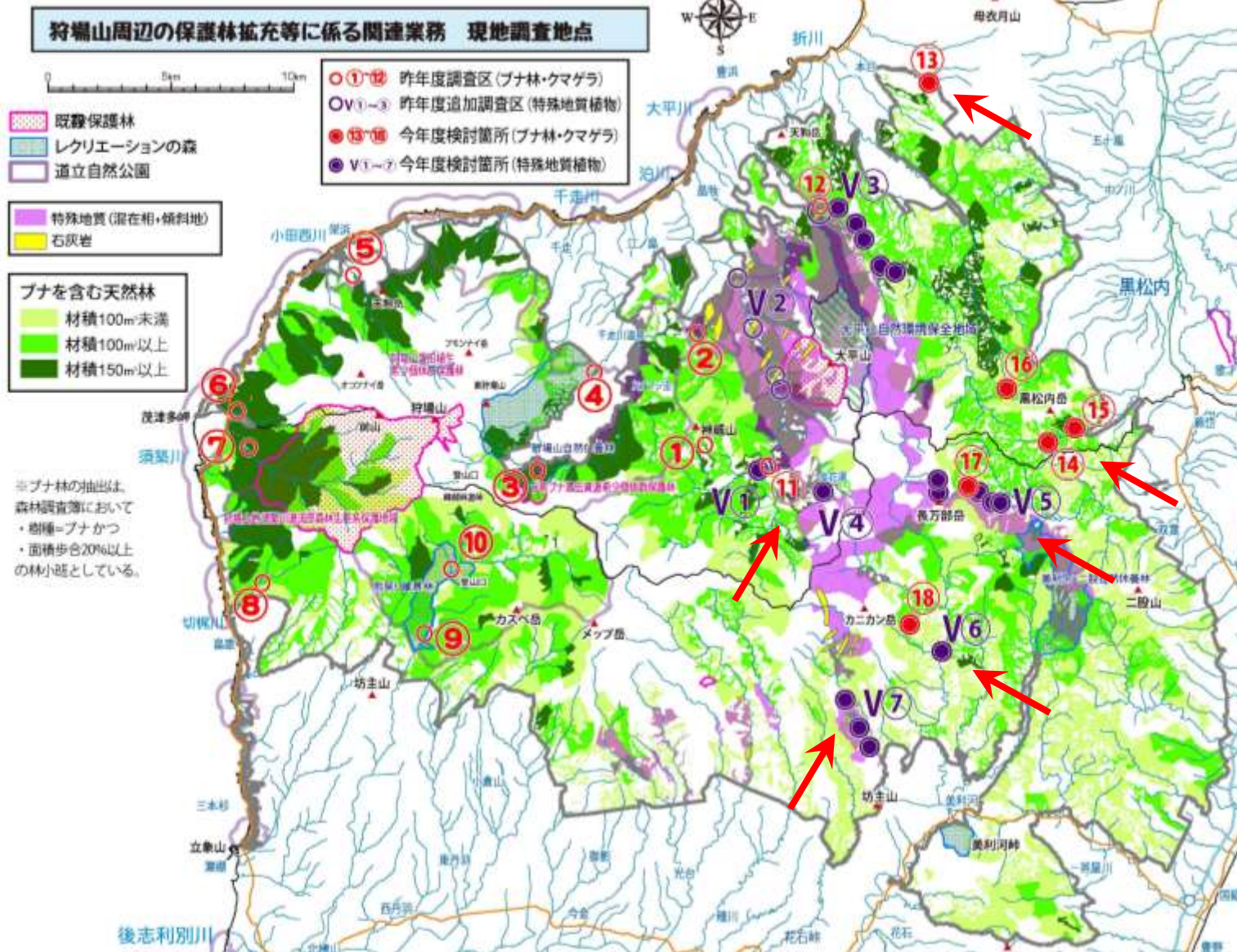
- ◆ 令和元年7～8月
広域データ収集とGISによる整理
現地調査と過去の調査データの整理
- ◆ 令和元年9月～10月
現地検討会、委員会での報告と意見聴取
現地調査・分析の追加実施
- ◆ 令和2年3月
書面開催での委員会での報告

- ◆ 令和2年6～8月
現地調査の追加実施
森林・希少植物・クマタカ



(令和2年度)
調査・分析の追加実施
保護林区域の検討

現地調査の追加実施(令和2年度)について



- 委員会での意見を踏まえて、大平山の黒松内側、南東部(長万部岳・カニカン岳)周辺で追加調査を実施。
- 発達したブナ林がある箇所6か所、地質図で石灰岩等の露頭が期待される4か所を選定して現地調査を実施。
- ポテンシャルマップを作成したクマタカについても簡易に調査。

ブナ林の追加調査結果

現地調査

	No	管理署	市町村	調査小班	全樹種 材積 m ³ /ha	本数 /ha	ブナ比 率	最大直 径	クマゲラ 指標	クマゲラ 痕跡
R 1 調査	1	後志	島牧	3309林班に2	182	620	54%	74	120	
	2			3341林班い	240	300	93%	83	141	
	3			3383林班い	394	325	80%	84	158	
	4			3406林班と	339	1,075	94%	75	98	
	5			3470林班と	411	660	30%	75	144	●
	6			3496林班い	410	235	70%	86	164	●
	7	渡島	せたな	5045林班い	371	545	32%	83	178	●
	8			5074林班い	297	1,120	34%	52	127	●
	9			5172林班と	366	435	74%	98	132	
	10			5130林班は	308	1,085	63%	54	101	●
R 1 追加	11	後志	島牧	3313林班に	243	1,205	89%	73	143	●
	12			3141林班い	646	460	66%	93	141	
R 2 調査	13	後志	島牧	3095林班い1	433	1,005	10%	46	197	
	14		黒松内	3008林班に	356	585	92%	65	89	
	15			3010林班ほ	525	430	93%	78		
	16	島牧	3115林班い	299	315	95%	76	118		
	17	渡島	長万部	530林班は	352	785	89%	66	83	
	18		今金	4178林班へ1	459	315	93%	79	98	

- ◆ 追加した6か所のうち5か所はブナが大きく優占し、大径木が生育する。
- ◆ 蓄積も全体的に高く、発達した林分が見られた。



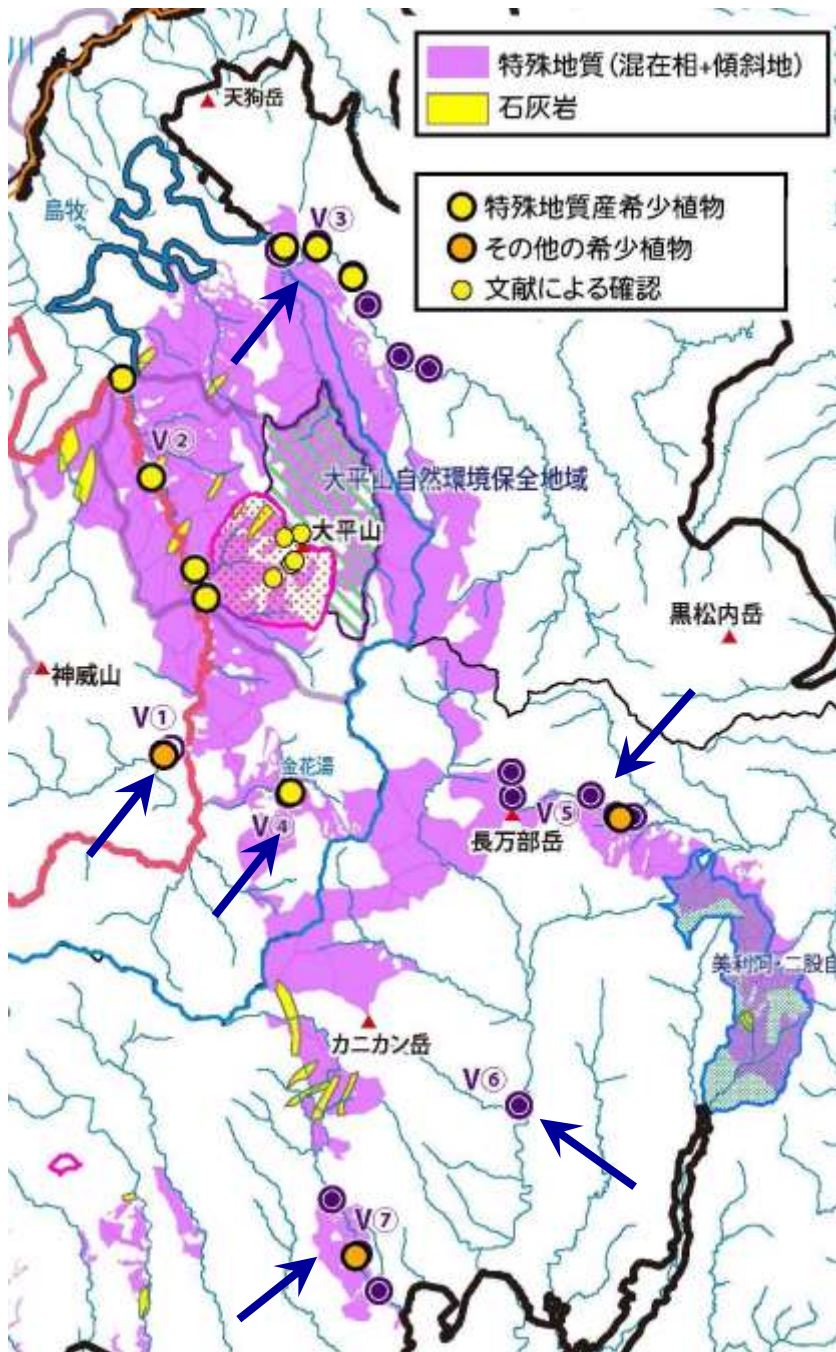
調査区15



調査区18

特殊地質に生育する植物の追加調査

- ◆ 大平山から美利河にかけて見られる石灰岩等の特殊な地質に生育する植物の生育について調査。
- ◆ 泊川流域、大平川流域の露岩地では、石灰岩固有の植物を確認。長万部岳やチュウシベツ林道でも希少植物を確認した。



④金花湯



⑦チュウシベツ

特殊地質に生育する植物の調査結果

希少種情報が含まれるため非公表



ヤマドリトラノオ



チャセンシダ



オシマオトギリ

「環境省レッドリスト」 CR：絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種)／VU：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

「北海道レッドデータブック」 En：絶滅危惧種(絶滅の危機に瀕している種または亜種)／R：希少種(存続基盤が脆弱な種または亜種)

- ◆ 大平川・泊川の流域では、石灰岩地に産するシリベシナズナやヤマドリトラノオを確認した。ヤマドリトラノオは、本州・九州にも分布するが産地はきわめて少なく、道内では大平山周辺のみに生育する。
- ◆ 南東部の長万部岳やカニカン岳周辺では限定的な調査となり、石灰岩に固有の植物は確認できなかったが、本地域特有の希少種がいくつか確認されている。

クマタカの調査結果

希少種情報が含まれるため非公表

- ◆ 森林を代表する猛禽類クマタカの生息について、推定された指標値が高く、目視がしやすい河川下流部5か所で定点調査を8月に実施。
- ◆ クマタカなど5種を確認。
- ◆ クマタカは3か所で確認された。



クマタカの生息推定と調査結果

希少種情報が含まれるため非公表

- ◆ クマタカの生息については、周辺範囲300mの森林材積が高く、傾斜30度以上標高700m未満の天然林を抽出（指標値は周辺材積の値）。
- ◆ 急傾斜地のある天然林がまとまっている須築川流域などの日本海側を中心にポテンシャルが分布している。
- ◆ ポテンシャルの高い場所でクマタカが実際に確認され、解析結果との対応が推察された。

区域案の検討について

□ 重要な要素の分布の推定（ポテンシャルマップの作成）

◆ 分析対象区域を拡大して、次の生態系要素についてポテンシャルマップを作成する。

- 発達したブナ林 ⇒ 北海道全体における位置づけを評価
- クマゲラ営巣指標
- クマタカ営巣指標
- 高山植生（特に雪田群落）
- 希少植物が生育する特殊地質
- 河川周辺環境

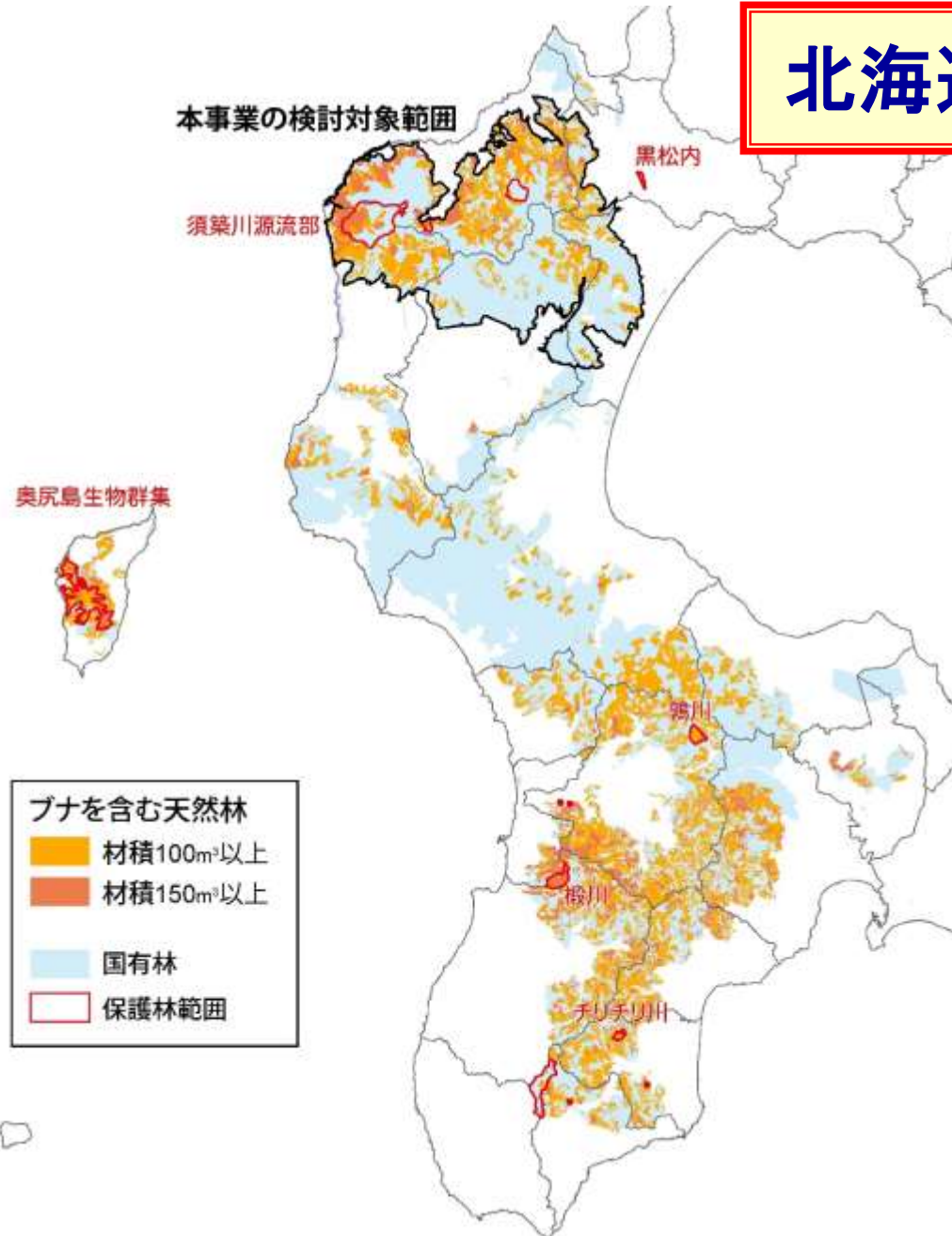
□ 重要な要素を多く含むような区域案の作成

◆ 各要素を効果的に多く含むように区域を設定する。

□ 社会的な条件やまとまりを考慮して調整

◆ 各機能類型に求められる森林の機能や社会的な条件、空間的な接続・配置を踏まえた調整により、具体的な区域案として整理する。

北海道のブナ林における位置づけ



森林調査簿を元に道内の発達したブナ林を抽出。

■対象範囲国有林	294,858ha
■樹種=ブナ	93,826ha
面積歩合20%以上かつ	
材積100m ³ /ha以上	82,847ha
材積150m ³ /ha以上	17,422ha
■現行保護林内	
材積100m ³ /ha以上	4,551ha(5%)
材積150m ³ /ha以上	2,361ha(14%)
■本事業検討範囲内	
材積100m ³ /ha以上	24,899ha(30%)
材積150m ³ /ha以上	6,181ha(35%)

本検討により、
まとまった北限ブナ林をカバーする
保護林を設定することができる

重要な要素の分布データ

■対象範囲国有林
現保護林

81,257ha
3,540ha(4%)

◆発達したブナ林

樹種=ブナ 47,749ha
材積100m³以上 26,914ha(6%)
材積150m³以上 6,958ha(12%)

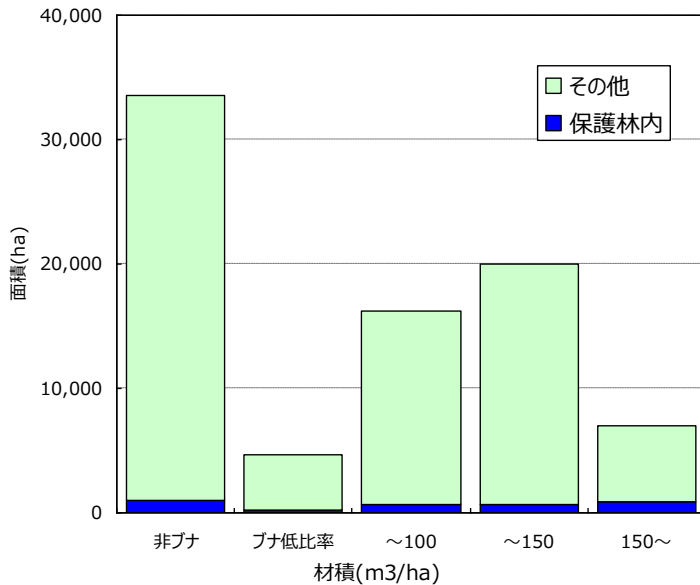
◆クマゲラ営巣指標

150m³以上
6,210ha(13%)

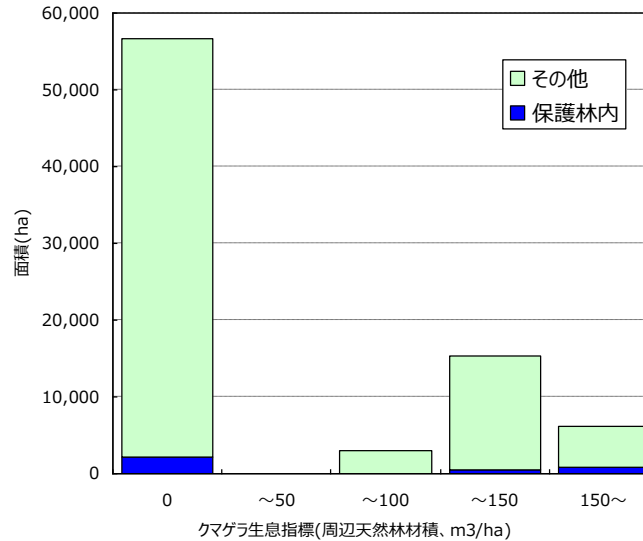
◆クマタカ営巣指標

150m³以上
5,206ha(15%)

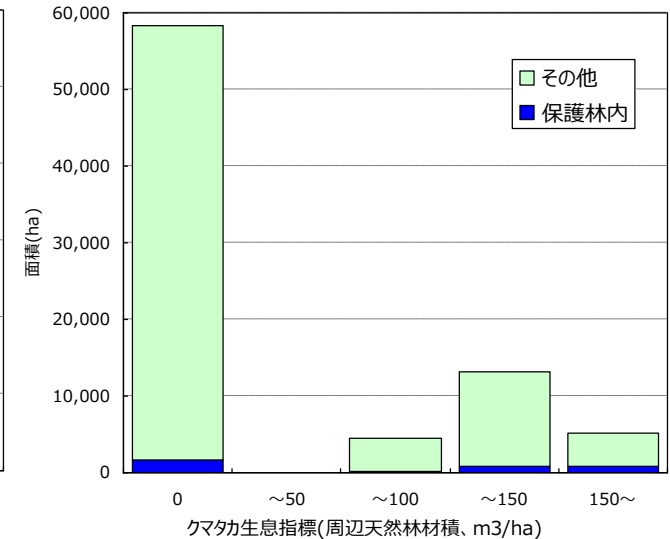
検討対象区域のブナ林材積の頻度分布



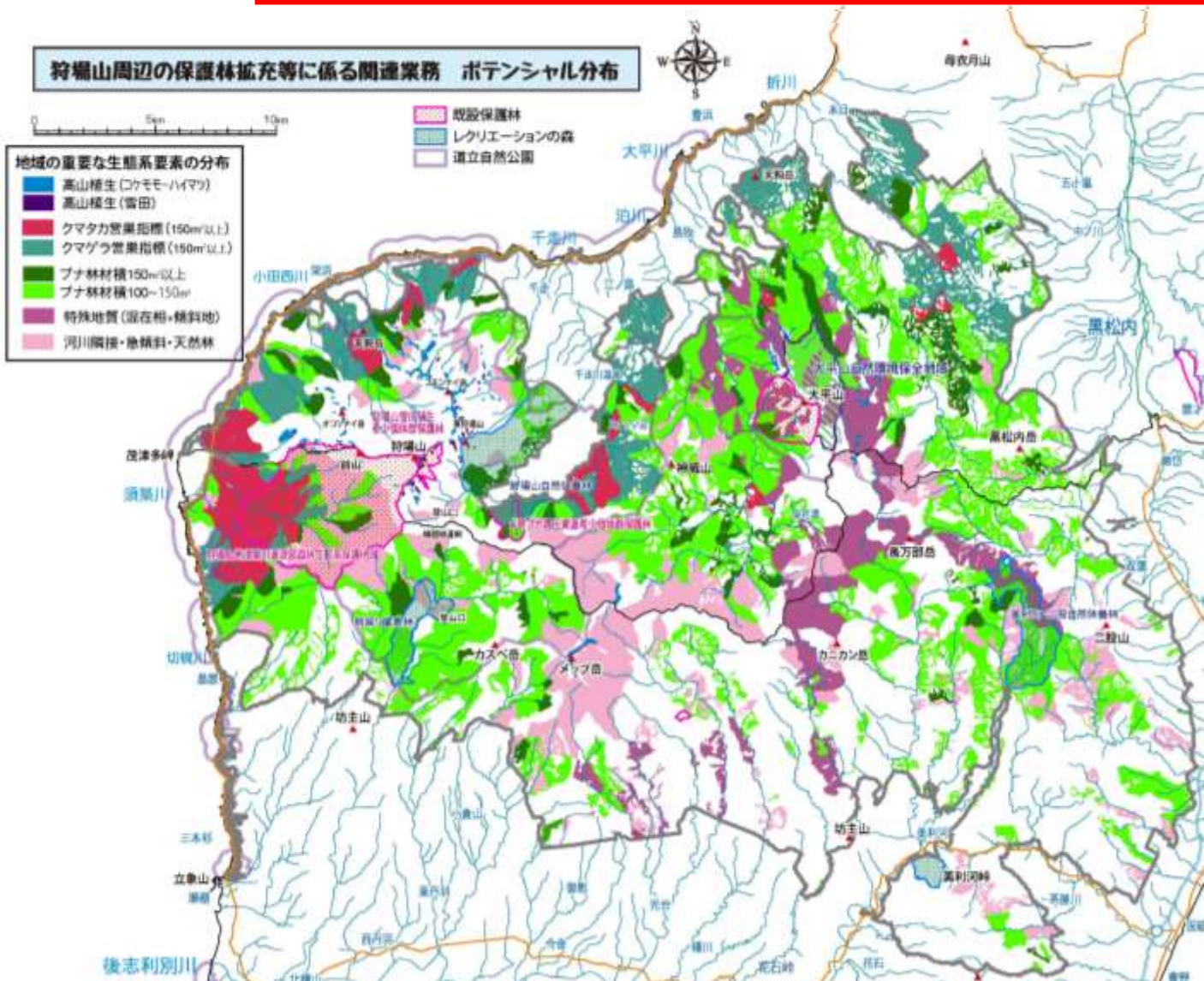
検討対象区域のクマゲラ生息指標の頻度分布



検討対象区域のクマタカ生息指標の頻度分布



重要な要素のポテンシャル分布



■対象範囲国有林

81,257ha

現保護林 3,540ha(4%)

※ () は保護林内の比率

◆発達したブナ林

材積100m³以上 26,914ha(6%)

材積150m³以上
6,958ha(12%)

◆クマゲラ営業指標 150m³以上
6,210ha(13%)

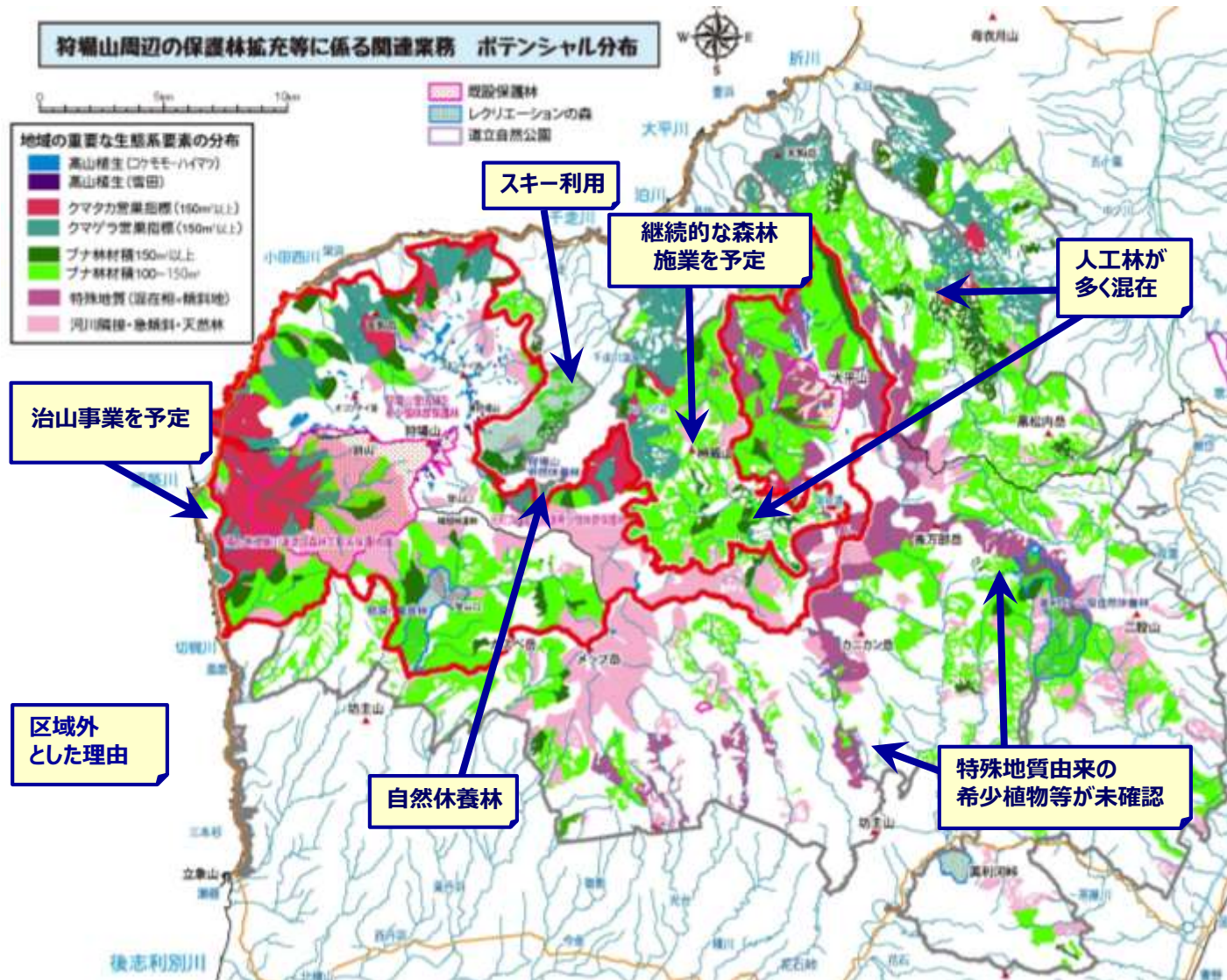
◆クマタカ営業指標 150m³以上
5,206ha(15%)

◆高山植生 (雪田群落等)
イワイチョウ等 43ha(38%)

◆希少種が生育する特殊地質
シリバシナズナ等 8,394ha(5%)

◆河川周辺環境
カリバオウギ等 37,122ha(6%)

重要な要素を多く含む区域の設定



■主要ポテンシャルをカバーする区域を設定

■管理署の意見等を考慮
約25,200ha (現在3,500ha)

■保護林カバー率の変化

◆発達したブナ林

材積100m³以上 6%⇒42%
道南ブナ林全体の14%をカバー

材積150m³以上 12%⇒65%
道南ブナ林全体の26%をカバー

◆クマゲラ指標 13%⇒61%

◆クマタカ指標 15%⇒80%

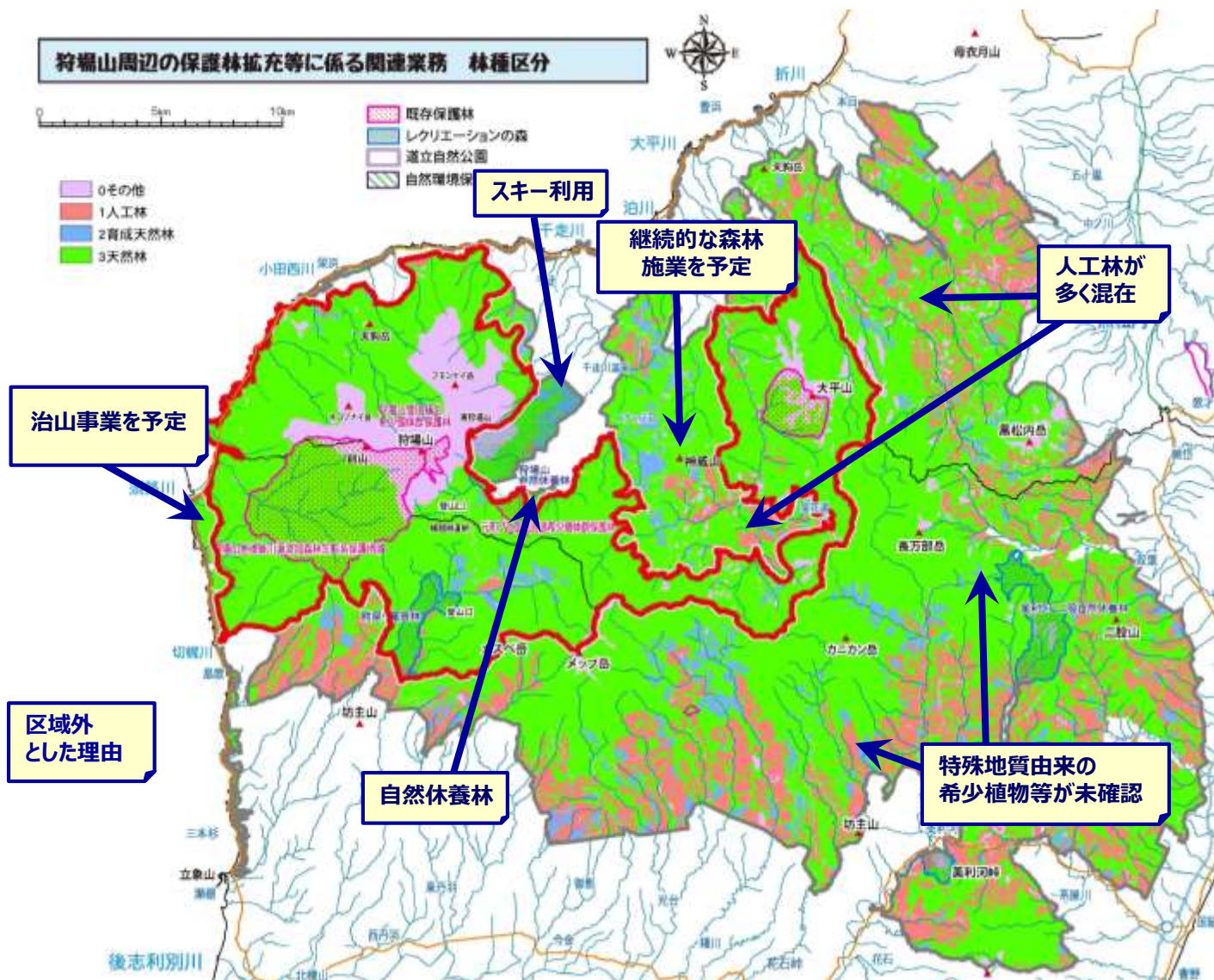
◆高山植生 11%⇒89%

雪田群落 38%⇒99%

◆希少種が生育する特殊地質 5%⇒44%

◆河川周辺環境 6%⇒40%

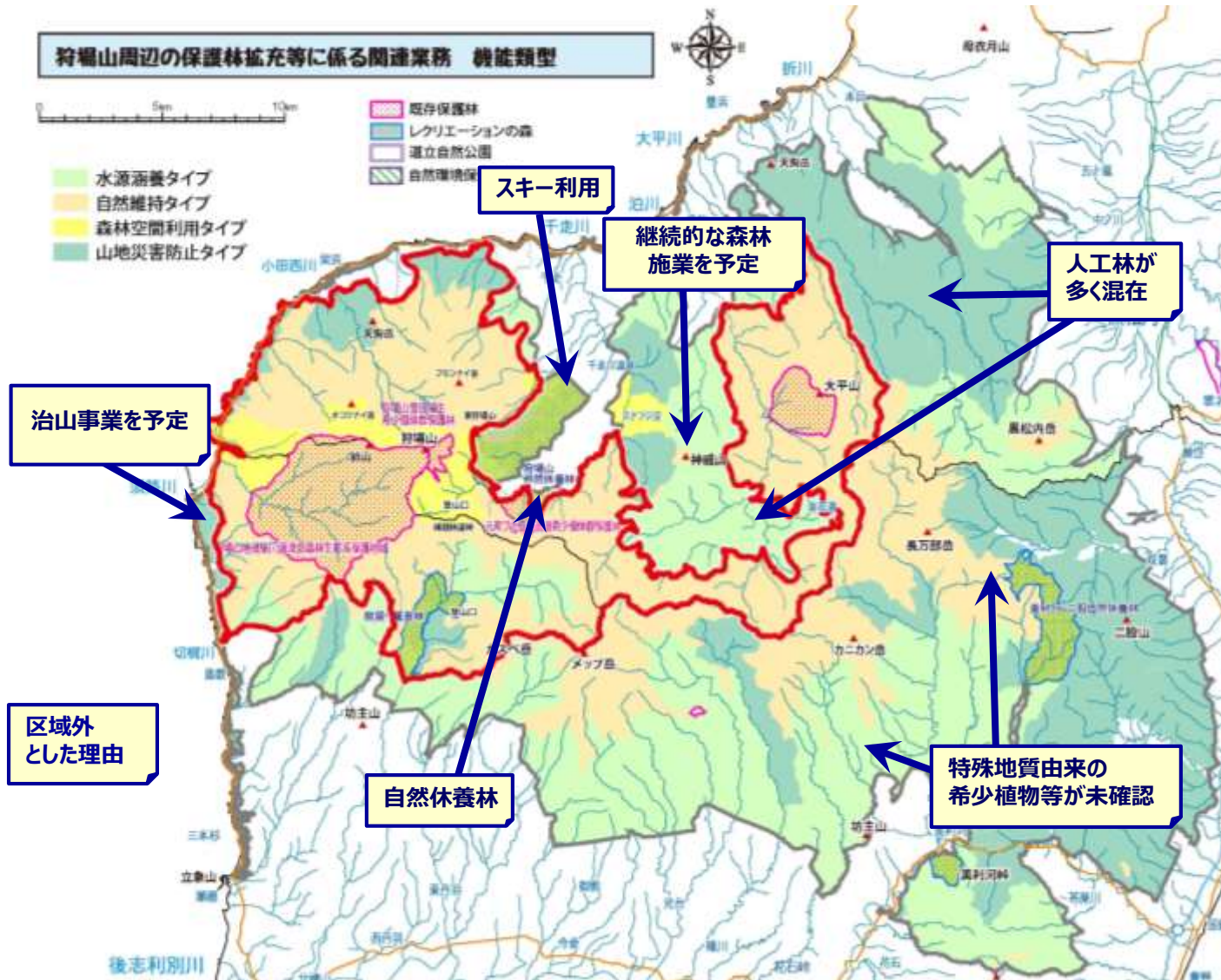
区域案と林種区分



区域案の林種区分

- ◆人工林 1%
- ◆育成天然林 1%
- ◆天然生林 83%
- ◆その他（非林地） 15%

区域案と機能類型



区域案の機能類型

- ◆水源涵養タイプ 5%
- ◆自然維持タイプ 79%
- ◆森林空間利用タイプ 10%
- ◆山地災害防止タイプ 6%

区域案と現在の保護区



- ◆ 既存の4保護区を含む
- ◆ 自然環境保全地域を含む
- ◆ 道立自然公園と近い区域となる（分離されている2地区は連続する）

区域案の確定

林小班を単位として、
区画の形状や接続に
配慮して形状を調整